



The 49th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research

日本睡眠学会第49回定期学術集会

ランチオンセミナー16

# Luncheon Seminar 16

日時 2025年6月29日(日) 12:10~13:00

会場 I会場 広島大学 霞キャンパス  
臨床講義棟 1F エムネスホール  
〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

## 小児・思春期に起こる睡眠障害の原因 ～起立性調節障害を中心に～

座長 岡 靖哲 先生

愛媛大学医学部附属病院  
睡眠医療センター 特任教授

演者 柳本 嘉時 先生

関西医科大学 小児科学講座  
診療講師

本セミナーは整理券制です

会場前で整理券を引き換えにお弁当をお渡しします。  
数に限りがありますので、ご了承ください。

配布場所 広島大学 霞キャンパス 凌雲棟1F

配布時間 6月29日(日) 8:00~12:10

- 予定数に達し次第、配布を終了致します。
- 整理券は、セミナー開始5分後に無効となります。

共催:日本睡眠学会第49回定期学術集会 /  
フクダ電子株式会社

ランチョンセミナー16

## Luncheon Seminar 16

### 小児・思春期に起こる睡眠障害の原因

～起立性調節障害を中心に～

#### 柳本 嘉時

関西医科大学 小児科学講座 診療講師

小児科領域における睡眠障害は年齢によって発症要因や背景が異なり、年齢に応じた対応が必要になってくる。乳幼児期から目立つものとしては神経発達症を背景とした睡眠障害があり、思春期以降の睡眠障害は成人と同様になってくるが、思春期では睡眠不足が原因として最も多いことに注意しておく必要がある。また、思春期では自律神経失調に伴う睡眠障害、特に思春期に好発する起立性調節障害に伴う睡眠障害がある。軽症や自覚症状がないケースを含めると中学生の10人に1人が起立性調節障害の体質を持っており、起立性調節障害は思春期の診察を行う上で避けて通れない疾患である。起立性調節障害の症例は身体症状に加えて起床困難・不眠のために不登校になることも多く、不登校の子どもが毎年増えている現代において起立性調節障害は社会全体で対応すべき課題ともいえる。起立性調節障害に伴う睡眠障害では、疾患に対する治療とともに、睡眠障害に対する治療が求められる。対応は他の睡眠障害と同様に基本的な睡眠環境の調整、生活指導が中心になるが、起立性調節障害の身体症状である起床困難、全身倦怠感、頭痛などで生活リズムが崩れやすく、日中の活動量が低下しやすいため、身体症状による活動困難をふまえた指導や対応が必要になる。そして起立性調節障害という疾患に対する基本的な理解が必要になる。本講演では起立性調節障害という疾患、そして起立性調節障害に合併する睡眠障害への対応を中心に、小児科領域でよくみられる睡眠障害とその対応についてお話しする。本講演が睡眠障害を抱えて受診される小児に対する診療の参考になれば幸いである。

共催:日本睡眠学会第49回定期学術集会／  
フクダ電子株式会社